

調査問題の分析



本資料の見方



付けたい力の 明確化

問題や授業において「付けたい力(資質・能力)」を示しています。付けたい力を明確にした上で、そのために必要な学習活動や適切な支援・手立てを計画することが大切です。



「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりについて、プロセスごとに示しています。

小学校国語	2 ページ
小学校算数	6 ページ
小学校理科	10 ページ
中学校国語	14 ページ
中学校数学	18 ページ
中学校理科	22 ページ
児童生徒質問調査・学校質問調査	27 ページ

令和7年6月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

小学校 国語

【全体を通して】

- ・昨年度に続き、目的に応じて、複数の資料や文章から、必要な情報を取り出して解答する問題が出された。
- ・「読むこと」の領域では、「自分が一番なっとくしたこと」をまとめるという問題が出された。複数の資料を読み比べて、必要な情報を取り出し、理由となる情報を適切に記述する力が問われた。
- ・「書くこと」の領域では、「手ぬぐいのよさについてすいせんする」という目的を意識して記述する問題が出された。より具体的に詳しく説明するために、書き表し方を工夫する力が問われた。
- ・全体としては、児童の興味・関心に基づいて学習活動を設定し、目的をもって説明的な文章を読んだり、読んで考えたことをもとに対話を通して自分の考えを広げたりまとめたりすることができる単元の構成が求められていることが分かる問題構成となっている。



【指導改善のポイント】

◇児童の目的意識を明確にし、必要に応じて、適切な情報を見付ける言語活動の設定

- 一人ひとりの児童の疑問や興味を生かして学習課題を設定する。そのうえで、共通の資料を読んで確かめたり、必要に応じて複数の資料を読み比べたりするなど、児童が主体的に取り組める学習過程を工夫する。
- 必要な情報は読む目的に応じて変わるため、読む目的を明確にしたうえで、要旨を把握するなどして必要な情報を見付ける言語活動を取り入れる。
その際、書き手の述べたいことを知るために読むという目的に偏らないようにする。

【読む目的の例(学習指導要領解説より)】

- ①書き手の述べたいことを知るために読む。
- ②読み手の知りたいことを調べるために読む。
※今年度の調査問題は、「一人ひとりが疑問や興味をもったことについて調べるために読む」。
- ③知的欲求を満たすために読む。
- ④自分の表現に生かすために読む。



- 収集した情報の適切さを確かめるための交流の場を設ける。(➡P 4～5 参照)

◇見付けた情報を整理したり再構成したりして、まとめる指導の充実

- 見付けた情報から分かったことや自分の考えをまとめたり表現したりする学習場面を設定する。分かったことをまとめる活動では、事実と感想、意見とを区別して書いたり、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方を工夫する「書くこと」の学習と関連付けて指導する。その際、理由や事例を明確にしながら筋道を立てて自分の考えを書くことや、事実と感想、意見とを区別して書くために、文末表現に注意することを児童が意識できるように工夫する。

調査問題一覧表 【小学校国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
			(1) 言葉の事項の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1	一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する				5・6ア				○		○		
	二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する		5・6イ					○			○		
	三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する				5・6エ				○		○		
	三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する				5・6エ				○		○		
2	一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する					3・4イ			○		○		
	二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する					5・6エ			○		○		
	三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く					5・6ウ			○				○
	四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(このみ)	5・6エ						○				○	
	四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す(あつい日)	5・6エ						○				○	
3	一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する			5・6ウ				○			○		
	二(1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く						1・2ア		○			○	
	二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する						5・6ア		○		○		
	三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する						5・6ウ		○		○		
	三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く						5・6ウ		○				○

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。

(中略)

「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

(文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。)



木村さん

言葉は年月とともに
「どのような変化をす
るのか」について調べた
いな。

一人ひとりの疑問や
興味をもとに課題を
設定する。

二 木村さんは、【資料1】を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思いました。そこで、次の【資料2】と【資料3】を読み、分かったことをあとの【木村さんのメモ】に整理しています。

【資料3】

とてもできる?できない?

今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変えたいと思わないでしょうか。「とても」は「非常に」の意味を表します。

ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまとまらない」のように、「とてもくない」の形で言ったというのです。

(中略)

ことばを昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまう。昔はどうだったかを知ることは大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことばを現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

メモに書き
出して、ま
ずは「要旨」
を整理して
みよう。



木村さん

指導改善のポイント

(2)

【木村さんのメモ】の **イ** に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 世代によってもものの呼び方がちがう。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

【木村さんのメモ】(資料3について)

言葉の変化について分かったこと

とてもできる→できない?

(室町時代) (大正時代よりも前) (今)

どうせ ↓ どうしても、とうてい ↓ 非常に

イ

正答

1 時代とともに言葉の意味が変わる。

友だちと確認してみよう。

- ① 書き手が**どのような意見**をもっているのかな。
② 内容の**中心となる事柄(言葉)**はどのようなことかな。

【木村さんのメモ】からは、時代とともに変わっていることが分かるね。

「言葉の意味が変わる」とまとめたのは、どうして?

資料3では、「昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなく」なるから、「ことばを現代の意味で使うのが一番いい」という**意見**が書かれていたからだよ。

内容の**中心となる事柄**は「言葉の意味」についてだったの?

たしかそうだったよ……。ええっとね……。

資料3では、「意味を表す」や「意味で使う」という言葉が、何度も使われているわ。

なるほどね。

文章全体を通して、何について、どのように書かれているかを考えると、伝えたかったことがよく分かるね。

読み解く力
分析・整理

○文章を部分的に取り上げて読むのではなく、文章全体の構成を捉えて要旨を把握できるように指導する。

小学校 算数

【全体を通して】

・「図形」領域の設問において、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、複数ある求め方から一つ選び、式や言葉を用いて記述する問題が出題された。



・記述式の問題において、グラフから見いだしたことを表現する際、目的に応じて適切なグラフを選択して判断し、その理由をどの部分に着目したか分かるよう、言葉や数を用いて記述する問題が出題された。

・[知識及び技能]に関しては、五つの図形の中から、台形を選ぶ問題や、異分母の分数の加法の計算など9問が出題された。また、角の大きさや分数の表し方など、定義や性質を正しく理解できているか問う問題が出題された。

・日常生活の問題を解決するために、日常の事象について伴って変わる二つの数量関係に着目して考察する設問があった。例えば、算数の問題を見いだす場面では、普段使っているハンドソープの液体の量とハンドソープを押す回数について、何回押すと空になるか解決しようとする児童の姿が想像できる。

【指導改善のポイント】

◇数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を統合的・発展的に考察することができるようにする。

□小数や分数の加法について、単位分数（もとにする数）に着目して、共通する単位を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。

□計算する過程では、形式的に処理するだけでなく、既習の内容を基にしながら計算の仕方を考えることができるようにすることが重要である。例えば、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ を通分して $\frac{9}{12} + \frac{8}{12}$ にし、単位分数である $\frac{1}{12}$ の個数に着目することによって、整数の加法に直して処理する活動が考えられる。その際、 $\frac{9}{12} + \frac{8}{12}$ を図に表すなどして、通分することによって同じ単位分数（もとにする数）のいくつ分として考え、統合的・発展的に考察することが大切である。

◇自分の考えを深めたり、記述したり表現したりする指導の充実

□日常生活において、ある数量を調べようとするときに、関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して、問題を解決する場面を設定することが考えられる。その際、場面の状況を把握して、必要な数量を求め、与えられた条件を基に筋道を立てて考え、求め方を式や言葉を用いて記述できるようにすることが大切である。また、与えられた数量やそれらの関係を整理し、問題を解決するためには、どの情報をどの順序で使えばよいのかについて、解決の見通しを立てて処理していくことが大切である。



□問題解決に複数の段階が必要な状況を取り入れ、解決の見通しを明確にして情報を選択するとともに、解決の過程を記述し、説明する活動を取り入れることが考えられる。

(➡P 8～9 参照)

調査問題一覧表 【小学校算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		
			A 数と 計算	B 図 形	C 測 定	C 変 化 と 関 係	D デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度	選 択 式	短 答 式	記 述 式
1	(1) 2022年の全国のプロックリーの出荷量が2002年の全国のプロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○		
	(2) 都道府県Aのプロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(ア)	○					○
	(3) 示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○			○		
	(4) 示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とプロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)					○				○	
2	(1) 示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○				○	
	(2) 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○		
	(3) 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(5) ア(ア)				○			○		
	(4) 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) ア(ア) ※				○					○
3	(1) $0.4 + 0.05$ について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ウ)					○				○	
	(2) $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) ア(ア) イ(ア)					○					○
	(3) 数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○				○	
	(4) $1/2 + 1/3$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) ア(ア)					○				○	
4	(1) 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○			○		
	(2) 使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○					○
	(3) はかりが示された場面、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○	
	(4) 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) イ(ア)		○			○		

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

出題の
趣旨

日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかどうかをみる。



付けたい力の
明確化

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。

算数 4 日常の事象について伴って変わる二つの数量の関係に着目して考察すること（ハンドソープ）

4

保健委員のあさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



あさひ ハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

「プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり」回すことです。

「プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることになります。」



(1) まず、あさひさんは、保健室にある新品のハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを考えています。



保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が 240 mL 入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が 240 mL 入っています。

新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mL の他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- | | | |
|---|------------------------|------|
| ア | 「プッシュ分のハンドソープの液体の量」 | 3 mL |
| イ | 「プッシュするときにおす長さ」 | 2 cm |
| ウ | あさひさんが 1 日にプッシュする回数の平均 | 8 回 |
| エ | あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 | 60 秒 |

正答 【記号】ア

4

(1)



新品のハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュできるのかな。



新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、何が分かればよいですか。



① 必要な情報を確かに取り出す



新品のハンドソープの量は…

そのほかに、どのような数量が必要かな。



② 情報を比較し、関連付けて整理する

「1 プッシュ分のハンドソープの液体の量」など、ある数量を調べるときに、それと関係のある数量を見いだす。

関係のある数量を使って調べられないかと考えて、二つの数量の関係を言葉と数を用いて説明する。



付けたい力の 明確化

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる。

(2) 学校の手洗い場に、別の容器に入っている使いかけのハンドソープがあります。

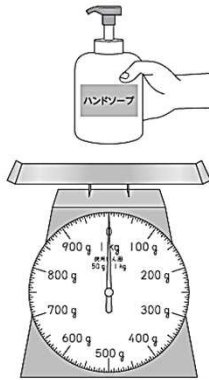
次に、あさひさんたちは、そのハンドソープを空になるまで使うとしたら、あと何プッシュすることができるのかを考えています。



新品だったらハンドソープの液体が何 mL 入っているのかは、はっきりわかるけれど、使いかけのハンドソープの液体が何 mL 入っているのかは、すぐにはわかりません。



ハンドソープの液体の重さをはかって調べられないでしょうか。



このハンドソープの液体と容器を合わせた重さは 270 g でした。

使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るためには、270 g の他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から 2 つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その 2 つと 270 g を使って、あと何プッシュすることができるのか、その求め方を式や言葉を使って書きましょう。

ア	新品のハンドソープの重さ	360 g
イ	ハンドソープの容器の重さ	60 g
ウ	1 プッシュ分のハンドソープの液体の重さ	3 g
エ	かんなさんが 1 日に手を洗う回数の平均	7 回

正答

【記号】イ、ウ

【求め方】

(例)

使いかけのハンドソープの液体の重さは、 $270 - 60 = 210$ で、210g です。あと何プッシュすることができるのかは、 $210 \div 3 = 70$ で求めることができます。

4 (2)



使いかけのハンドソープは何 mL 入っているか、すぐには分からないね。



使いかけのハンドソープの液体の重さも変わります。



容器の重さは変わらないよ。



プッシュする回数にともなって変わる数量は、液体の量のほかに何かありますか。

1 プッシュ分のハンドソープの液体の量だけでなく、重さを使うと、空になるまで、あと何プッシュすることができるか求めることができました。



ともなって変わる数量の関係に着目すると、知りたい数量の大きさが求められましたね。



① 必要な情報を確かに取り出す

② 情報を比較し、関連付けて整理する

③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

示された情報を基に、関係のある数量を読み取り、必要な数量について考える。

使いかけのハンドソープの液体の重さと 1 プッシュ分のハンドソープの重さが必要であると判断する。

液体の量の代わりに、重さに着目したことで、問題解決ができたことを振り返り、児童自身が学びや変容を自覚する。

【全体を通して】

- ・ 全ての大問が、問題解決の過程を踏まえた実際の授業（観察、実験）を想定した文脈で出題されており、その過程の中から、児童自身が問題を見だし表現できるかどうか我问われた。また、発芽の条件を調べる実験等において、実験の条件を制御しながら解決の方法を発想する力が問われた。
- ・ 記述式の問題において、赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現できるかどうか我问われた。
- ・ [知識及び技能] に関しては、顕微鏡の操作や身の回りの金属の性質、乾電池のつなぎ方等について問う問題が出題された。
- ・ 全体としては、オホーツク海の氷の減少と気温の変動が関係していることやフェンシングの判定が電気の性質を利用していることなど、習得した知識を他の学習や生活に関連付けて考える力を問う問題が複数出題された。



【指導改善のポイント】

◇問題解決の力の育成に向けた指導の充実

- 児童の気付きや疑問が、観察、実験などを通して解決できるよう、何をどのように調べていくのかについて、明確にする。
- 実験の計画を立てる学習場面においては、実験の条件を制御した解決の方法を発想したり、予想や仮説を基に解決するための観察、実験の方法を計画したりできるよう指導する。

(➡ P12～P13問題例参照)

◇学んだことを基に自分の考えを深めたり、記述したり表現したりする場面の設定

- 自然の事物・現象を比較したり、児童同士が話し合ったりする中で、自分や他者の気付きを基に、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだしていくような場面を設定する。

(➡ P13問題例参照)

◇知識を概念的に理解するための指導の充実

- 観察、実験したことを言葉で説明したり、図に整理したりするなど、知識と関連付けて理解を深めることの重要性について意識しながら授業を改善する。
- 児童が習得した知識を他の学習や生活に関連付けて考えることができる場面を設定する。



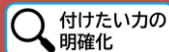
調査問題一覧表【小学校理科】

問題番号		問題の概要	出題の意図	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式		
				A区分		B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
				「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生物」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域						
1	(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップ Aの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかをみる			4B(3)ア(1)※		○				○	
	(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかをみる			4B(3)ア(1)※		○					○
	(3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかをみる			4B(3)ア(1)※		○			○		
2	(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3A(5)ア(1)	3A(4)ア(7)			○			○		
	(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかをみる	3A(5)ア(7)※(1)※					○		○		
	(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A(3)ア(1)				○				○	
	(4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4A(3)ア(7)				○			○		
3	(1)	ハチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ハチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる			5B(1)ア(1)		○			○	○	
	(2)	ハチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる			5B(1)ア		○			○		
	(3)	ハチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかをみる			5B(1)ア(1)※			○		○		
	(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかをみる			5B(1)イ			○				○
4	(1)	水の温まり方について、問題にをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかをみる	4A(2)ア(1)※					○			○	
	(2)イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A(2)ア(7)		4B(4)ア(1)		○			○		
	(2)エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4A(2)ア(7)		4B(4)ア(1)		○			○		
	(3)力	海にある水がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかをみる	4A(2)ア(7)※					○		○		
	(3)キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる			4B(3)ア(7)		○			○		
	(3)ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかをみる	4A(2)ア(7)※					○		○		

※本設問において、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

出題の趣旨

花のつくりや受粉について理解できているか、発芽の条件について解決の方法を発想しながら問題を解決できるかどうかをみる。



発芽するために必要な条件について制御した実験の方法を計画し、表現することができる。

3 花のつくりや受粉、発芽の条件

課題の把握 (発見)

たかひろさんたちは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、ヘチマの発芽について調べることにしました。

- 【問題】ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。
 【予想】インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度（室温）といった条件で発芽すると思う。
 【方法①】水が必要か調べる。
 【方法②】空気が必要か調べる。
 【方法③】適した温度（室温）が必要か調べる。

(3) 【方法③】は、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

 〈条件〉 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	 〈条件〉 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・冷蔵庫の中(約5℃) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	 〈条件〉 ・水あり ・空気なし(種子が空気にふれていない) ・温度(室温) ・日光なし(箱をかぶせている) ・肥料なし	 〈条件〉 ・水あり ・空気あり(種子が空気にふれている) ・温度(室温) ・日光あり(直接日光が当たらない明るい所) ・肥料なし
--	--	---	--

検証計画の立案

【方法③】の「適した温度（室温）が必要か調べる。」ためには、どのような条件で実験すればよいですか。

てるみ: 調べたい条件を1つだけ変えて、あとの条件は同じにして調べるのが大切だったね。

いおり: 適した温度が必要かどうかを調べたいから、変える条件は、温度だね。

たかひろ: インゲンマメの時は温度を低くするために、冷蔵庫の中に入れたね。

てるみ: 冷蔵庫の中は暗いから、もう一方も箱をかぶせて暗くして、光の条件を同じにしないとだめだね。

正答 1、2

結果の整理

結果にはばらつきがあるかもしれないので、他の班の結果を集めて考えましょう。

考察、結論の導出

たかひろ: 実験の結果から、ヘチマの種子も、水、空気、適した温度といった条件が必要だったよ。

条件を制御した観察、実験の計画を立てる学習場面を設定する。

発芽に関する要因を挙げ、その要因を変える条件と変えない条件とに区別する。

予想や仮説を基に解決するための観察、実験の方法を計画する。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。

自然事象に対する気づき

ポイント

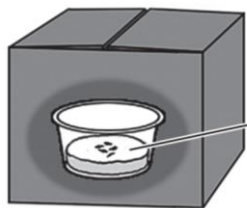
実験結果を基に、**実験方法**について振り返る学習場面を設定する



たかひろ

レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



しめらせた
めん
だっし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし



いおり

インゲンマメやヘチマの種子は、水、空気、適した温度といった条件が必要だと学習したけれど、レタスの場合は違うのかな。

問題の見いだし

ポイント

インゲンマメやヘチマの種子の発芽の条件について学習した後、**調べたいこと**について話し合う中で「**〇〇**はどうなのだろうか」といった**新たな問題**を見いだす学習場面の設定が考えられる。



てるみ

水、空気、温度のほかに、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

正答例「レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。」

児童の気づきや疑問が、観察、実験などを通して解決できる問題となるよう、**何をどのように調べていくのかについて、明確にしておくことが大切です。**



子ども同士が話し合う中で**新たな問題**を見いだす場面の充実を図ることで、問題解決の力を育成するとともに、**問題が子ども自身のものとなり主体的な学びへとつながります。**



課題の把握
(発見)

課題の追究
(追究)

中学校 国語

【全体を通して】

- ・ 学校生活の中で生徒が1人1台端末等のICTを活用している具体的な場面（文書作成ソフトを用いて美術展のちらしを作成する、スライドを提示してスピーチを行う）が取り上げられた。いずれも、目的や相手に応じて文章やスピーチの内容をよりよいものにするために検討する過程でICTを用いている。
- ・ 記述式の問題において、考えが分かりやすく伝わるような文章構成の工夫について説明したり、文章の展開にどのような効果があるのかについて考えをまとめたりする問題が出された。意図を明確にして、読み手に伝わるよう言語化する力が問われた。また、目的に応じて必要な情報を選び、情報と情報の関係が分かるように書いたり、読み手の立場に立って手紙を読み直し、文章を整えたりする力も問われた。例年と同様、字数制限は設けられていない。
- ・ 全体として、生徒一人ひとりが明確な目的意識と相手意識をもって取り組める言語活動を設定することや、文章の構成や展開の工夫について、その効果を実感し、意図をもって適切に活用できることが重要であるというメッセージが感じられる問題であった。



【指導改善のポイント】

◇単元でねらいとする資質・能力を効果的に育成する言語活動の充実

- 指導事項を踏まえ、生徒の実態や興味・関心に応じた言語活動を設定し、生徒が単元を通して、目的意識や相手意識、見通しをもち続けられるように指導する。
- 生徒自身が、国語科および他教科等における学びを日常生活や社会生活に生かしながら、学習課題を解決できるように言語活動を充実させる。
- 対話的な学びにおいて、考えを伝えるだけに限らず、「なぜそのように考えたのか」という意図を互いに確かめ合うことを意識した言語活動を設定する。
(➡ P16～17問題例参照)

◇学んだことを基に、自分の考えをまとめ、表現したり記述したりする指導の充実

- 自分の考えを適切にまとめ、表現したり記述したりできるよう、「知識及び技能」を「思考力、判断力、表現力等」と相互に関連付けて一体的に指導する。その際、一人ひとりの生徒の良いところや前よりもできるようになったところ、うまくできていないところやうまくできるようになるための工夫や方法を伝えるようにする。
- 他者との対話や複数の資料から、自分の考えを広げ深めたり、新しい考えを生み出したりする学習活動を設定する。
- 読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直して、わかりやすく整えるため、文章を読み返す視点を明らかにしたうえで、身に付けている知識や技能を生かせるように指導する。(➡ P16～17問題例参照)

◇1人1台端末や学校図書館の効果的な活用

- 1人1台端末等のICTを活用することによって効果的な学びにつながる場面を見定め、計画的に活用する。
- 学校図書館を活用し、図書や新聞等の資料を用いた学習や読書活動の充実を図る。



調査問題一覧表 【中学校国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1	一 変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○			○		
	二 ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					1ア			○		○		
	三 ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる					1イ			○		○		
	四 ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる					1ウ			○				○
2	一 スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる				2ウ				○		○		
	二 聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1ウ				○		○		
	三 「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2イ				○		○		
	四 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ				○				○
3	一 物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ			○		○		
	二 「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる					2ア			○			○	
	三 「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ						○			○		
	四 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ			○				○
4	一 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ			○			○	
	二 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ			○				○

4

三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の大野さんに、お礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲している途中の【手紙の下書きの一部】です。

【手紙の下書きの一部】

先日

ご協力くださり、

さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。



三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【手紙の下書きの一部】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考にして、次の**条件1**から**条件3**にしたがって書きなさい。

条件1

修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分を一つ選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2

修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3

修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいとき、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

指導改善のポイント



- ① 読み手の立場に立って文章を読み、語句の用法や叙述の仕方などを確かめましょう。
- ② あなたが修正した方がよいと考えた部分について、友だちに理由を説明しましょう。

before



この文が長いから、二つに分けよう。

先日
さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでした。しかし、
~~いなかの生活を、~~皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたら、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

after



一文が長いので読みづらく、体験活動の前と後での変化も伝わりにくいから、文を二つに分けよう。



修正をするだけでなく、
なぜその部分を修正した方がよいと考えたのか、
その意図を確かめる活動の設定

理由を尋ねる



どうしてそのような修正をしたの？

このように修正した理由は、読み手にとって、一文が長いのは読みづらいと思ったからだよ。



効果を尋ねる



なるほど。
二文に分けることで、どんな効果があるんだろう？

体験活動の前と後のことが一緒に書かれていると、内容が捉えにくいよね。伝えたいことをはっきりさせるためには、二文に分けて接続語でつなぐ方がよいと思ったんだ。



確かにそうだね。その方が読み手に伝わりやすくなるね。



○手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を述べる。

中学校 数学

【全体を通して】

- ・〔知識及び技能〕に関しては、大問1から大問5までは単一の設問として出題されている。また、大問6から大問9までは〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕との二つの内容のまとまりで一体的に出題されている。
- ・記述式の問題において、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明する力が問われた。例えば、じゃんけんカードゲームにおいて、勝ちやすさを判断するために、その判断の理由を確率を根拠として説明する問題が出題された。
- ・平行四辺形であることを証明する問題について、証明を振り返り、証明された事柄をもとにして、新たに分かる辺についての関係を見いだす力が問われた。さらに、条件を変えた場合にできる四角形が平行四辺形になることを、もとの証明を振り返り、証明の一部を書き直して説明する力が問われた。
- ・全体として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、日常生活や社会の事象ならびに数学の事象から問題を見いだすことや、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する資質・能力が求められている。

【指導改善のポイント】

◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する学習の設定

(⇒P20参照)

- 他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったりする場面では、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりすることが大切である。
- 「用いるもの」（表、式、グラフ）を明確にした上で、その「用い方」（ x 座標がある値となるときの y 座標の値を読み取るなど）を記述したり説明したりする場面を設定する。

◇問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する活動の充実

(⇒P21参照)

- 図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを証明したり、条件を変えて共通する性質を見いだすなど統合的・発展的に考察したりすることや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切である。
- ある事柄について証明した後に、その証明を読んで見直すことや、条件を変えて発展的に考え、見いだした図形の性質について証明する学習活動を設ける。

◇1人1台端末の効果的な活用

- 具体を通して数学的に考える力や、様々なデータを収集・整理・分析してその結果をもとに判断・表現できる力を育成するために、ICTを活用する場面を適切に選択する。
- 図形領域においては、図形をディスプレイ上でいろいろな形に変形することにより、性質を見いだすことができる。また、データの活用領域においては、階級の幅の変更に伴うヒストグラムの作り替えを短時間で行うことができるため、考察する時間を十分に確保することができる。



調査問題一覧表 【中学校数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			数 と 式	図 形	関 数	デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1 (1) ア (ア)				○			○		
2	果汁 40% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、 a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1 (2) ア (エ)				○				○	
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		2 (1) ア (イ)			○				○	
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる			2 (1) ア (ア)		○				○	
5	ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる					1 (1) ア (ア)	○			○	
6	(1) 連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2 (1) ア (ウ) イ (イ)				○				○	
	(2) $3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (イ)					○				○
	(3) 連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (イ)					○				○
7	(1) A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				2 (2) ア (ア)	○				○	
	(2) A の手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の 4 枚、B の手元のカードが「グー」、「チョキ」の 2 枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2 (2) イ (イ)		○				○
8	(1) A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる			1 (1) ア (ウ)		○			○		
	(2) A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1 (1) イ (イ)			○				○
9	(1) 四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見出すことができるかどうかをみる	2 (2) ア (イ)				○			○		
	(2) 平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる		2 (2) イ (ア)				○			○	
	(3) 平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる		2 (2) イ (イ)				○				○

出題の趣旨

事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 数学的に表現したことを事象に即して解釈すること
- ・ 事象の特徴を的確に捉えること
- ・ 問題解決の方法を数学的に説明すること



事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

8 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること（新しい駅）

- 8 A 駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C 駅と D 駅の間にあるスタジアムによく行きます。

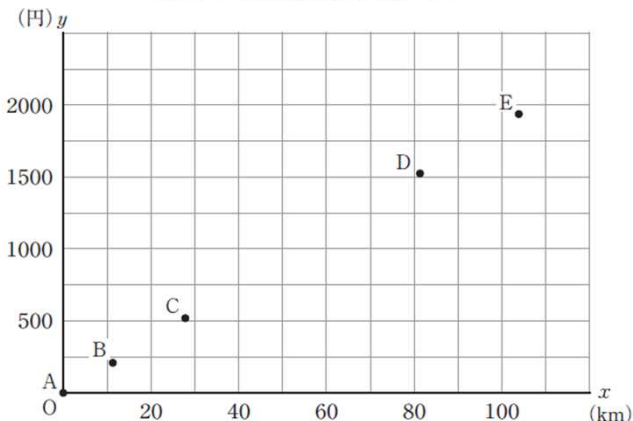
歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A 駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A 駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A 駅	B 駅	C 駅	D 駅	E 駅
A 駅からの走行距離 (km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A 駅からの運賃 (円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A 駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくく感じました。そこで、調べた結果をもとに、A 駅からの走行距離を x km、A 駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点 A から点 E までの各点の x 座標と y 座標は、それぞれ A 駅から E 駅までの各駅の A 駅からの走行距離と運賃を表しています。

A 駅からの走行距離と運賃のグラフ



(2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅は A 駅から 60.0 km の地点につくられることがわかりました。そこで、A 駅から新しい駅までの運賃がおおよそ何円になるかを予測することにしました。

A 駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページの A 駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点 A から点 E までの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A 駅から新しい駅までの運賃はおおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおおよそ何円になるかを求める必要はありません。

正答例

- ・ 点 A から点 E をもとに、直線のグラフをかき、 x 座標が 60 のときの y 座標を読む。
- ・ 対応する x と y の値をもとに、 x と y の関係を比例の式で表し、その式に $x=60$ を代入し、 y の値を求める。
- ・ 表の数値を用いて比例定数を調べ、その比例定数で A 駅からの走行距離が 60.0 km になるときの運賃を計算する。

① 必要な情報を確かに取り出す

A 駅から新しい駅までの運賃を知るために、関係する二つの数量を見いだす。



② 情報を比較し、関連付けて整理する

二つの数量の関係を理想化したり単純化したりして考察する。



③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

二つの数量の関係を比例とみなして、A 駅から新しい駅までの運賃を求める方法を話し合う。



② 情報を比較し、関連付けて整理する

まとめた表やグラフから、比例しているとみてよさそうですか。



よさそうです。理由は、グラフが原点を通る直線とみることができるからです。



③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

運賃を求める方法を話し合いましょう。



A 駅からの走行距離が 60 km のときの運賃を求められればよいね。

直線のグラフをかいて、 x 座標が 60 のときの y 座標を読めばいいかな。



出題の趣旨

図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 解決の過程や結果を振り返り評価・改善すること
- ・ 統一的・発展的に考察すること
- ・ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること

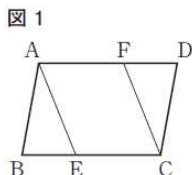
🔍 付けたい力の
明確化

統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる。

9 証明を振り返り、統一的・発展的に考察すること（平行四辺形）

- 9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。



もとの問題の証明

証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $AF \parallel EC$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC \quad \dots\dots ②$$

仮定より、

$$DF = BE \quad \dots\dots ③$$

②、③より、

$$AD - DF = BC - BE \quad \dots\dots ④$$

④より、

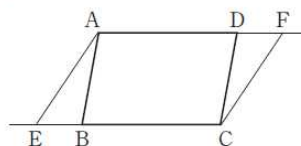
$$AF = EC \quad \dots\dots ⑤$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形AECFは平行四辺形である。

- (2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直しなさい。

図2



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$ ……①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$ ……②
ウ	仮定より、 $DF = BE$ ……③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$ ……④
オ	④より、 $AF = EC$ ……⑤
	①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形AECFは平行四辺形である。

正答例

エ

②、③より、 $AD + DF = BC + BE \dots\dots ④$

①必要な情報を確かに取り出す

条件を変えて成り立つ事柄を予想する。



②情報を比較し、関連付けて整理する

もとの問題の証明を見ながら、条件を変えた場合の証明について見通しをもつ。



③自分なりに解決し、知識を再構築する

条件を変える前と変えた後の証明について振り返る。



②情報を比較し、関連付けて整理する

もとの問題の証明を見ながら、考えてみましょう。どのように証明を書いていけばよいでしょうか。



③自分なりに解決し、知識を再構築する

もとの問題の証明から、 $AD - DF = BC - BE$ の部分だけが、変わったよ。



条件を変える前は、向かい合う辺のAFとECの長さが等しかったよ。

次の図でもAFとECの長さが等しいといえるのかな。



その違いが、二つの図にどのように表れていますか。



「辺BC、DA上に点E、Fがある」とことと「辺CB、ADを延長した直線上に点E、Fがある」とことです。



中学校 理科

【全体を通して】

- ・ 全ての大問において、日常生活や社会との関わりの中で、生徒自らが事象の中に問題を見いだして課題を設定し、対話によって自分の考えをより妥当なものにしたり、広げたり、深めたりしながら、科学的な探究の過程を通して解決していく力が問われた。
- ・ 記述式の問題において、基礎的・基本的な知識および技能を活用して、観察、実験等を基に導き出した自らの考えを表現する力が問われた。
- ・ [知識および技能] に関しては、日常的な場面や異なる領域において、知識が概念として身に付いているかどうかを問う問題が10問出題された。また安全面に関わる問題も出題された。
- ・ CBTで実施されたことにより、動画やアニメーション画像、カラーの図版を使用した多様な方法で問題が出題された。



【指導改善のポイント】

◇生徒自らが科学的な探究の過程を遂行する中で、理科の資質・能力を身に付ける学習の設定

□ 身近な自然の事物・現象から見いだした問題を解決するために自ら課題を設定し、多面的、総合的に探究することで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切である。

□ 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定して探究の過程を見通す場面や、考察の妥当性を高めるための実験を行う場面等を設定する。

(➡ P 25～26問題例参照)

◇学んだことを基に自分の考えを深めたり、記述したり表現したりする指導の充実

□ 身に付けた知識や技能を活用し、理科の見方・考え方を働かせて、実験や観察の結果がどのようになるかを予想したり、得られた結果を分析して解釈したりすることが大切である。

□ 予想される実験の結果を適切に説明する場面や、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを行う場面を設定する。

(➡ P 25～26問題例参照)



令和7年度中学校理科の CBT 問題の構成について

- 公開問題 と非公開問題を組み合わせて構成。
- 公開問題には全日程に共通する問題と実施日により異なる問題があり、いずれも授業改善に向けたメッセージを発信。同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解く。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。
- 生徒一人が解く問題数は26問。このうち、公開問題が10問、非公開問題は16問。

下の 1 ～ 9 は調査問題の各問題番号に相当

	公開問題（合計22問）		非公開問題		
	全日程に 共通する問題 (6問)	実施日により 異なる問題 (16問)			
4/14(月) 1日目	1 (1)～(6) ⑥問	2 9 (1) (2) (1) (2) ④問	+	①6問	= ②6問
4/15(火) 2日目	1 (1)～(6) ⑥問	5 8 (1) (2) (1) (2) ④問	+	①6問	= ②6問
4/16(水) 3日目	1 (1)～(6) ⑥問	3 6 (1) (2) (1) (2) ④問	+	①6問	= ②6問
4/17(木) 4日目	1 (1)～(6) ⑥問	4 7 (1) (2) (1) (2) ④問	+	①6問	= ②6問

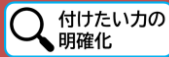
※ 問題の順序は上記のとおりではない。

国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」のウェブサイトに掲載

調査問題一覧表【中学校理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
1	(1) 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ②				○			○		
	(2) 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2) (7) ②				○				○
	(3) 地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) ②	○			○		
	(4) 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(3) (7) ②		○			○		
	(5) 塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ①				○				○	
	(6) 水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) ②					○				○
2	(1) 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) ②					○		○		○
	(2) 「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストーリーの太さや音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ②				○			○		
3	(1) 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ②					○		○		
	(2) 抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗が付いている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗が付いている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ①				○			○		
4	(1) プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) ②					○		○		
	(2) 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ①				○			○		
5	(1) 加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ②				○			○		
	(2) 実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (1) ②					○				○
6	(1) 牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる			(1) (7) ②		○			○		
	(2) 牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる			(3) (1) ②			○		○		
7	(1) 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる			(3) (7) ②			○		○		
	(2) 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ②		(3) (7) ②		○			○		
8	(1) 大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がりを推定できるかどうかをみる				(2) (1) ②	○			○		○
	(2) Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで表す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる				(2) (1) ②		○				○
9	(1) 【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (7) ②					○		○		
	(2) クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる				(4) (7) ②	○			○		

出題の趣旨 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。



考察の妥当性を検討し、探究の過程を振り返り、探究の過程を調節して実験を計画することができる。

2 ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり科学的に探究する

課題の把握
(発見)

ポイント

ものづくり活動を通して、**自然の事物・現象に疑問をもたせる**学習場面を設定する。

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

自然事象に対する気付き

課題の設定

音の高さについて、気付いたことを整理して、課題を設定しましょう。



ストローを上下に動かしたら音の高さが変わりました。



仮説の設定

ストローの中に息を吹き込むと音が出るのは、ストローの中の空気が振動したからだよね。

検証計画の立案

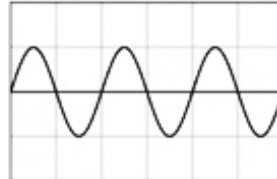
音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

観察、実験の実施

【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。

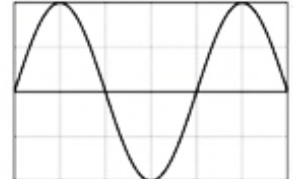
結果の処理

実験1



オシロスコープの波形

実験2



オシロスコープの波形

考察・推論

表現・伝達

ストロー内の空気の長さと言の高さの関係について、**量的・関係的な見方を働かせ**、音の高さに関する知識を活用し、**規則性を見いだす**。



右のように【考察】しました。

【考察】

「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。

課題の追究
(追究)

課題の解決

次の探究の過程

ポイント

振り返り

考察の妥当性を高めるための学習場面を設定する。

【考察】で見いだしたことは、本当にそうと言えるのかな？



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験をするとよいですね。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。

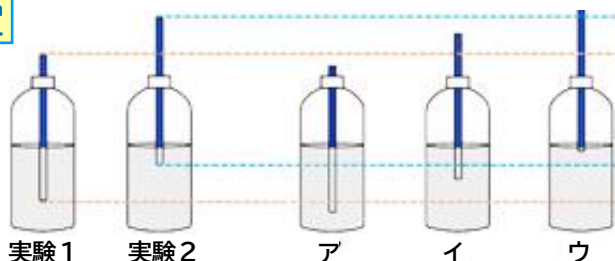
ポイント

変える条件に着目した実験を計画する。

どのような条件の装置を用意して実験したらよいかな？
また、結果から何がわかったら【考察】がより確かなものになるかな？



仮説の設定



ストローの高さが分かるように補助線を引いている

ポイント

見通し

生徒が見通しをもって課題や仮説を設定し、観察・実験を行うことができるよう工夫する。

検証計画の立案

- (1) 下線部について、【考察】をより確かなものするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか。1つ選びなさい。上のア、イ、ウのどの実験を選んでもかまいません。
→ また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいか、振動数という言葉を使って書きなさい。

正答

〔選んだ実験〕

ア

〔分かればよいこと〕

例1 実験1、2より振動数が多いことが分かればよい。

例2 実験1、2の振動数が、アよりも少ないことが分かればよい。

〔選んだ実験〕

イ

〔分かればよいこと〕

例1 実験1より振動数が少なく、実験2より振動数が多いことが分かればよい。

例2 振動数が、実験1と2の間であることが分かればよい。

〔選んだ実験〕

ウ

〔分かればよいこと〕

例1 実験1、2より振動数が少ないことが分かればよい。

例2 実験1、2の振動数が、ウよりも多いことが分かればよい。

児童生徒質問調査・学校質問調査のポイントについて

(文部科学省資料より)

1. 調査方式

○オンライン方式

小学校は実施事業者の Web システム、中学校は文部科学省 CBT システム (MEXCBT) を利用。令和 6 年度調査から全面的にオンライン方式で実施。

○ランダム方式の導入 (試行)

教科調査「中学校理科」を CBT で実施することを受けて、生徒質問調査においても MEXCBT の機能を生かし、一部の項目をランダム方式で試行実施。

- ・ PISA など国際調査の質問調査の手法を参考に、同じカテゴリーの質問項目群からランダムに選ばれた一部項目のみを生徒に質問。
- ・ 令和 7 年度調査では、生徒質問全項目のうち、5 項目をランダム方式に割り当て、5 項目の生徒回答負担により 16 項目分の回答データ (抽出調査相当) を得る予定。
【生徒】 30 (7 項目から 2 項目)
71 (4 項目から 1 項目)
72 (5 項目から 2 項目) 計 16 項目から 5 項目に回答
- ・ また、「中学校理科」調査後の質問でも、1 項目をランダム方式に割り当て、4 項目分の回答データを得る予定。

2. 令和 7 年度質問調査項目

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する項目

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況等を明らかにするため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や個別最適な学び・協働的な学びに関する項目を継続し、各教科の正答率との関係などについて更なる分析を行う。【児童生徒】 31～39 【学校】 25～35

(2) ICT を活用した学習状況に関する項目

TIMSS2023 の結果も踏まえ、児童生徒の ICT を活用する自信と学力との関係等について、よりきめ細かに把握できるよう項目を充実させる。【児童生徒】 28～30 【学校】 55～68

(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関する項目

①全般

TIMSS2023 の結果を踏まえて、各教科の得意・苦手に関する意識、各教科の興味・関心等の男女差等について分析するための項目を追加する。【児童】 44～70 【生徒】 44～72

②理科

令和7年度調査では教科調査「理科」を実施するため、理科の学習に対する興味・関心や授業の理解度、学習活動等に関する項目を充実させる。【児童】60～70【生徒】60～71

(4) コミュニティ・スクール等に関する項目

家庭や地域との連携・協働に関する取組の状況をよりきめ細かに把握できるよう、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等に関する項目を充実させる。【学校】73～79

3. その他

長期欠席者、特別な教育的支援を必要とする者、外国人等に係る項目

- ・特別な配慮を必要とする児童に関する質問項目を追加。【児童生徒】4【学校】69～71
- ・また、初めての取組として、調査の実施後に、学校に対する追加的なアンケートを実施し、長期欠席者、特別な教育的支援を必要とする者、外国人等の実態の把握を行う。

児童生徒質問調査

○全体を通して

〔質問数〕 小学校：71 項目（昨年度より 8 問増）

中学校：72 項目（昨年度より 7 問増）

〔特記事項〕

- ・自分の生活での意識を尋ねる項目について、子どものメディア利用やルール遵守に関する項目が削除され、家では主に何語で話しているかを尋ねる項目が加えられた。（小・中 4）
- ・子どもの学習習慣や学習環境を尋ねる項目について、学校の授業時間以外に読書をする時間や読書が好きかどうかを尋ねる項目が加えられた。（小・中 24）
- ・ICT 機器の活用状況と意識に関する項目について、児童の ICT 活用スキルに関する質問が追加された。（小・中 29）
- ・国語の学習に関する項目について、先生からの声かけやアドバイスに関する質問が追加された。（小・中 48、49）

○今年度新たに加えられた項目

◆ 令和元年度から令和 5 年度の間に尋ねられた項目

R 7 番号		質 問 項 目
小	中	
生活状況等について		
4	あなたの家では主に何語で話していますか ◆R3(30)「あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか」	
学習習慣や学習環境等について		
20	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか ◆R5(19)、R3(20)	
21	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ◆R1(19)、R3(21)、R4(23)、R5(20)	
24	読書は好きですか ◆R1(21)、R4(26)、R5(24)	
地域や社会に関わる活動の状況等について		
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった ◆R4(27)「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」	
26	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでももらったりすることがある ◆R4(28)「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでももらったりすることがある」	

I C Tを活用した学習状況について	
29-(1)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができると思いますか
29-(2)	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集することができると思いますか
29-(3)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができると思いますか
29-(4)	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか
教科に関する項目について	
44	国語の勉強は得意だ
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる
	50 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている
51	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている
	51 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている
52	算数（数学）の勉強は得意だ
58	算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている
59	小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている
	59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる
60	理科の勉強は得意だ
62	理科の授業の内容はよく分かる ◆R4(63)
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ ◆R4(65)
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい
65	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている ◆R4(64)「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」

	65	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている
	66	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できている
67	68	理科の授業では、観察や実験をよく行っている
68		理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えている
	69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている ◆R4(67) こちらでは（仮説）はなし
69		理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている ◆R4(68)
	70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っている
70		理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている ◆R4(69)
	71- (1)	理科の授業では、見いだした課題に対して、日常生活や既習事項と関連付けた根拠のある予想をしていますか
	71- (2)	理科の授業では、観察や実験の結果を自分でまとめていますか
	71- (3)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか

○令和6年度から文言が変更された項目（※下線部は変更箇所）

R 7 番号		質 問 項 目
小	中	
50		国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように <u>書き表し方</u> *を工夫して文章を書いている
56		算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用 <u>できている</u> **
66	67	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたり <u>している</u> ***

* 令和6年度は「書き表し方」がない

** 令和6年度は「できないか考える」

*** 令和6年度は「することがある」

○今年度削除された項目

R 6 番号		質 問 項 目
小	中	
生活状況等について		
5		普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか
6		普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか
7		携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
地域や社会に関わる活動の状況等について		
26		放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか
教科に関する項目について		
43		国語の勉強は大切だ
46		国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している
	46	国語の授業で、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している
47		国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えている
	47	国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている
	48	国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている
49		国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している
	49	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している
51		算数（数学）の勉強は大切だ
56		算数（数学）の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている
57		算数（数学）の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている
60		理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
61		英語の勉強は好きだ
62		英語の勉強は大切だ
63		英語の授業の内容はよく分かる

学校質問調査

○全体を通して

〔質問数〕 小学校：84 問（昨年度より 8 問増）

中学校：84 問（昨年度より 4 問増）

〔特記事項〕

- ・授業改善に関する取組状況の項目では、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導に関する質問が削除され、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱ったかどうかを尋ねる質問が追加された。【小・中 35】
- ・学習評価の項目では、「学習評価の方針を児童（生徒）に示した上で、児童（生徒）の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか。」という内容になった。【小・中 40】
- ・「特別支援教育」という項目の名称が「特別な配慮が必要な児童（生徒）への指導」に変更され、合理的配慮として具体的に行った内容や、日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮の程度を尋ねる質問が追加された。【小・中 69、70、71】
- ・家庭や地域との連携等に関する項目では、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等に関する取組やその効果に対する質問が5問追加された。【小・中 74、75、76、78、79】

質問項目の種類	項目数		新たに追加あり
	R 7		
	小学校	中学校	
○ 学校規模等	6	6	
○ 生徒指導等	4	4	○
○ 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況	14	14	○
○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	11	11	○
○ 総合的な学習の時間，学級活動，特別の教科 道徳の指導方法	4	4	
○ 学習評価	1	1	○
○ 国語科の指導方法	4	4	○
○ 算数（数学）科の指導方法	4	4	
○ 理科の指導方法	6	6	○
○ I C Tを活用した学習状況	14	14	
○ 特別な配慮が必要な児童（生徒）への指導	3	3	○
○ 小学校教育と中学校教育の連携	1	1	
○ 家庭や地域との連携等	7	7	○
○ 家庭学習	3	3	
○ 調査結果の活用	2	2	
合 計	84	84	

○今年度新たに加えられた項目

◆ 令和元年度から令和5年度の間に尋ねられた項目

7 学年に追加した項目
 ▼令和元年度から令和3年度の間に等納された項目

R 7 番号		質 問 項 目
小	中	
生徒指導等		
7		熱意をもって勉強している
9		将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした
		◆R1(11)、R3(8)、R4(8)、R5(11)
10		近視の予防の一環として、学校の休み時間や放課後などの時間に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項について指導していますか
学習運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況		
14		教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している ◆R1(16)、R5(18)
21		学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしている
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況		
35		教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った ◆R4(32)「調査対象である第6学年の児童（第3学年の生徒）に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」
学習評価		
40		学習評価の方針を児童（生徒）に示した上で、児童（生徒）の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか ◆R4(41)
国語科の指導方法		
41		国語の授業で、学習状況に即して児童（生徒）のよい点や進歩の状況を積極的に伝えること
42		国語の授業で、児童（生徒）に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じること
43		目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導
44		目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導
	43	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導

	44	読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導
理科の指導方法		
51		問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導
52		観察や実験の結果を整理（分析）し考察（解釈）する指導 ◆R4 中(53)
53		課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導
54		前年度に、児童（生徒）が観察や実験をする授業を 1 クラス当たりどの程度行いましたか ◆R4 小(54)、中(53)
特別な配慮が必要な児童への指導		
69		前年度までに、調査対象である第 6 学年の児童（第 3 学年の生徒）に対する授業の中で、障害のある児童を念頭に置いた指導上の工夫を行いましたか
70		学校では、調査対象である第 6 学年の児童（第 3 学年の生徒）のうち、発達障害を含む障害のある児童に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、以下のことをどの程度行いましたか (70-1) 人的支援の配慮 (70-2) 情報の取得、利用及び意思疎通への配慮 (70-3) ルール慣行の柔軟な変更
71		学校では、調査対象である第 6 学年の児童（第 3 学年の生徒）のうち、日本語指導が必要な児童（生徒）に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか
家庭や地域との連携等		
74		教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか
75		コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか
76		地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか ◆R3 (83)、R4 小(75)、中(73)
78		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果があった
79		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果があった ◆R5 小(73)、中(81)

○令和6年度から文言が変更された項目（※下線部は変更箇所）

R 6 番号		質 問 項 目
小	中	
学校運営に関する状況/教職員の資質向上に関する状況		
23	教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築している*	
算数科の指導方法		
45	<u>日常生活</u> **や社会における事象との関連を図った授業	
理科の指導方法		
50	<u>日常生活</u> **や社会における事象との関連を図った授業	

* 令和6年度は「教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気がある」

** 令和6年度は「実生活」

○今年度削除された項目

R 6 番号		質 問 項 目
小	中	
生徒指導等		
8	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか	
学習運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況		
12	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している	
17	児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	
20	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる	
21	各児童（生徒）の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしている	
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況		
32	授業において、児童（生徒）の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をする	
学習評価		
40	創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をする	

国語科の指導方法		
41		情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導
42		目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導
43		目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導
44		登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導
	41	話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導
	42	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導
	43	自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導
	44	説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導
理科の指導方法		
51		自ら考えた予想や仮説をもとに観察、実験の計画を立てることができるような指導
	51	自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てることができるような指導
英語科の指導方法		
52		学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか
	52	英語を聞いて概要や要点を捉える言語活動
	53	英語を読んで概要や要点を捉える言語活動
	54	原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動
	55	スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動
	56	自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動
調査結果の活用		
75	79	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか